

# 変貌する素材

Angela Cavalca

裁断法や新しい技術的な解決策、そして革新への探究が、新時代の消費者が求める汎用的ファッショントに対応する方法だ。

2017年春夏のファブリックトレンドは、相反するものの組み合わせだろう。軽やかでエレガントなトランスペラントを特徴とし、ハイテク-天然構造のパフォーマンス性の高い素材が注目だ。ラッティは、ウィメンズウェア向けに新しいフィルクーペ・ナイロンとリネンやコットンをブレンドした下地に、装飾的で幾何学的なプリントを施した生地を開発した。一方、ボット・ジュゼッペは、メンズウェア向けに、かなりシアーな布帛や、染めによって作り出した3D効果が特徴の生地を提案している。また、ロロ・ピアナやレダは、アウトドアやアクティブウェアに向けて、まったく新しい着心地をハイテク技術で強化した最上質のメリノウール生地を用意している。

2017年春夏の新世代デニムファブリックは、持続可能な製造工程を非常に重要視した、パフォーマンス性の高い素材に注目が集まるだろう。イスコの主な革新は、“Blue Skin”のデニムラインと“Fade Ez”という名の新しいフィニッシュ。前者は、3Dの形状にパフォーマンスを組み合わせ、自由な動きを保証するもので、後者は、どんな構造の生地でも、少量の水と化学薬品でウォッシュが可能だ。同社の重要な目標の1つは、ファッショントスポーツウェアを結びつけることだ。最新の“Arqua”というアクティブウェア・プラットフォームは、このテーマの実現を目指すもので、ダンス、フィットネス、ヨガ、アウトドア・アクティビティーと自転車通勤の各場面にあわせて、4タイプのデニムを展開している。保湿コントロール、撥水や防臭を含む新しい機能を特徴としている。

持続可能性と未来のテクノロジーに熱心に取り組む、オルタは、“Ortablufrequency”コレクションを発表した。デニム繊維にテクノロジーが組み込まれており、デニムそのものが私たちの環境活動を刺激する内容だ。Amplify、Reverb、Octave、Symbios

is、Vapor、Synthesis。様々なソリューションを用意しており、中でも新しく加わった“Bio-Kinetic Denim”は、体温を吸収し遠赤外線へと変換する機能を備え、着者の肌の血色を良くしてくれる。ファッショント着心地、美しさに求められるすべてを組み合わせた優れものだ。このデニムは、ポリアミド6.6ベースのスマートヤーンと生理活性鉱物を組み合わせた、Emana Blackで作られている。

隠れた技術としては、チャルックが製造した、生地の収縮率を下げる“Elastech”のような新基準が含まれる。超高伸縮性に加え、水平方向への伸縮に最高のリカバリーパー力を備えたデニム生地は、縦方向にも伸縮するため体の動きに更なる自由を与える。これは、服の形状を維持し、膝部分のたるみを防ぎ、最高級の着心地を提供するので、メーカーだけでなくデザイナーにも素晴らしい利益をもたらすものだ。インビスタは、伸縮性を重要な要素ととらえ、ニットデニムのための革新的な“Lycra Hybrid”技術を披露する。この生地は、ニットが持つ着心地と柔軟性の長所に、織布の真の美学とパフォーマンスを組み合わせている。さらにこの生地は、さまざまなタイプの服に使うことができ、それぞれ異なる消費者のニーズに応えることができる優れものだ。

